

おおい 自然園

オオトビサシガメ



杉の樹皮にはたくさん隙間があります。

この隙間では冬の間、多くの昆虫たちが越冬をしています。根際の浮かび上がった樹皮をめくると、いろいろな昆虫を見つけることができます。特にカメムシの仲間はずまざまな種類が見られ、今回紹介するオオトビサシガメは、体長が2センチメートルを超えるとびきり大きな種です。本種は樹皮にそっくりの色をしていることや、あまり動かないため、大きい体の割には目立ちません。

「サシガメ」という名前のとおり、鋭い針のような口を持っており、ほかの昆虫を捕まえてその口で体液を吸います。この仲間は身を守るための武器として口を使うことがあり、手でつかむと刺されることがあります。大井町にすむサシガメの仲間が人を襲うことはありませんが、つかまないと観察することをおすすめします。



▲越冬するオオトビサシガメ

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 渡辺恭平

【おおい自然園 HP】



▲井町の動物や植物観察掘り出し結果を掲載します。

【自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で